

平成29年5月15日



“光”ひろがる。ひびきあう。

平成28年度（第18期）決算について

西日本電信電話株式会社

代表取締役社長

村尾 和俊

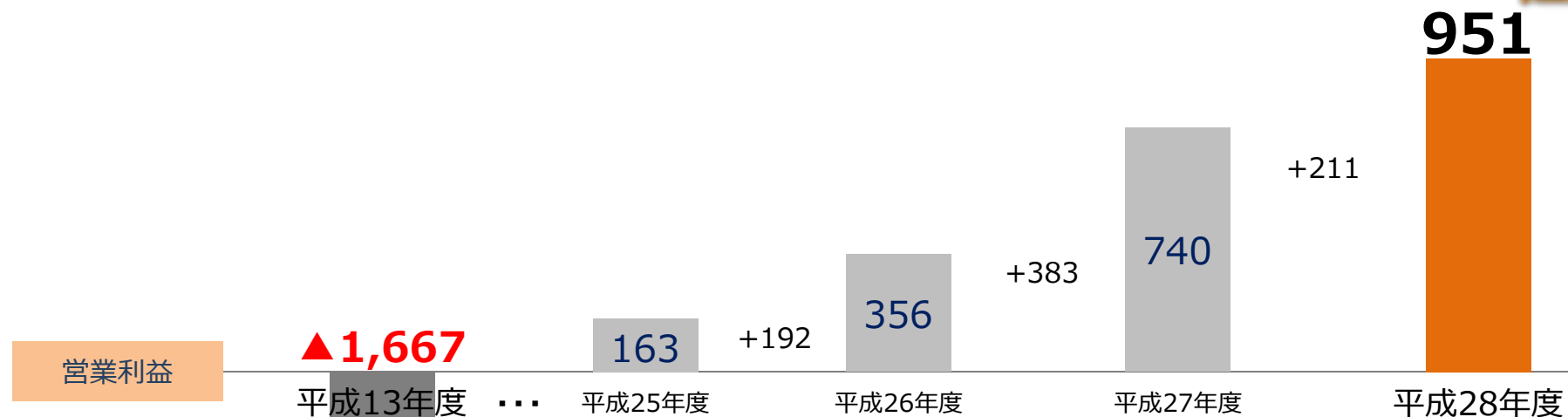
平成28年度決算概況（損益）

営業利益

➤ 経営改善施策の効果等により、3期連続の増益、且つ過去最高となる**951億円**を達成

（単位：億円）

過去最高益



（単位：億円）

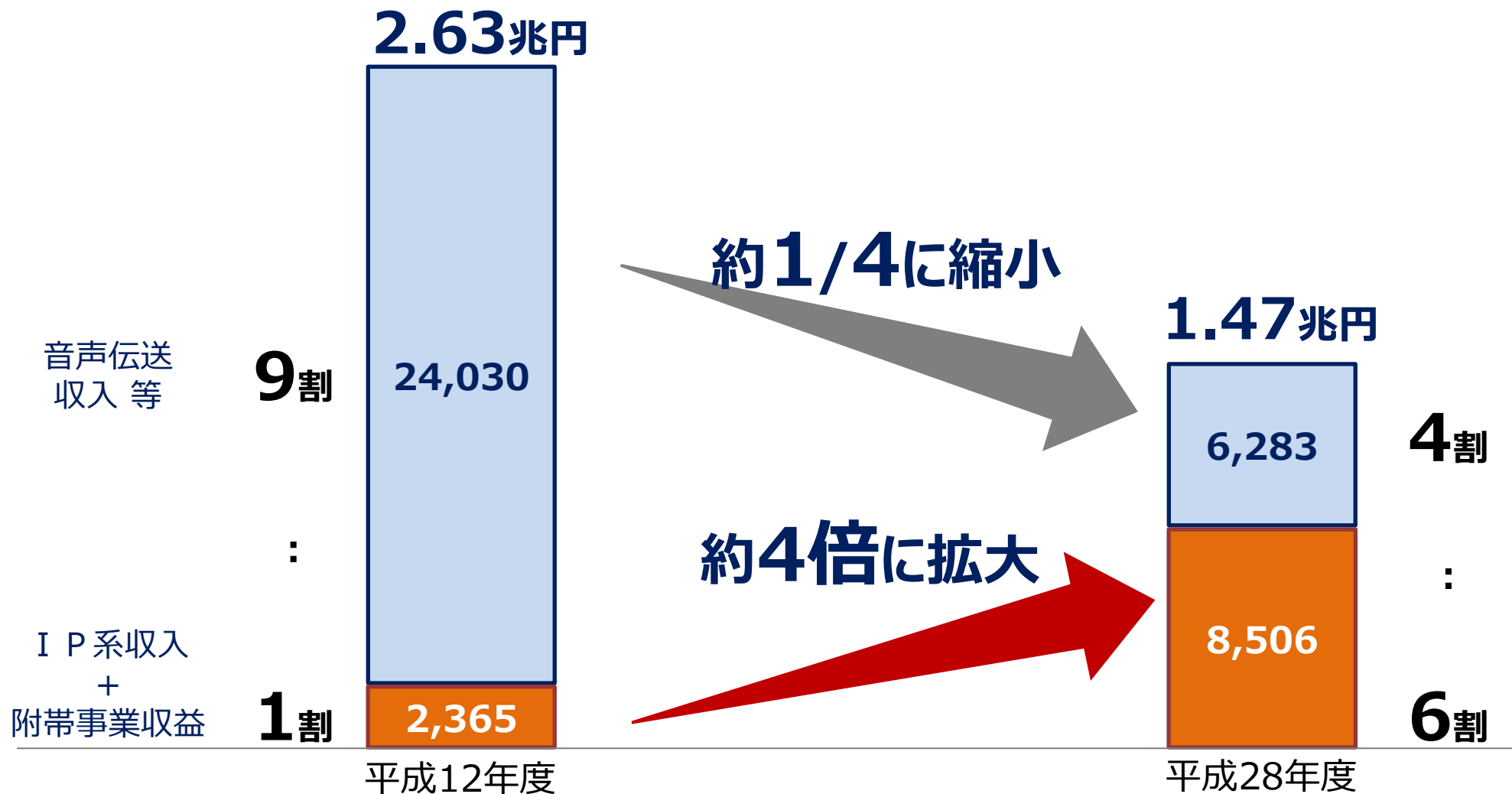
項目	平成13年度	...	平成25年度	増減	平成26年度	増減	平成27年度	増減	平成28年度
営業収益	24,067	...	15,896	▲153	15,742	▲461	15,280	▲490	14,790
IP系収入	-	...	6,716	+145	6,861	+165	7,027	▲54	6,972
営業費用	25,734	...	15,732	▲346	15,385	▲845	14,539	▲701	13,838
経費	12,027	...	10,328	▲336	9,992	▲746	9,245	▲291	8,954
当期純利益	▲3,553	...	187		139		724 (438)*		597

* 地方税相当の繰り延べ税金資産の計上を除く

収益構造の変化

- 「IP系収入 + 附帯事業収益」は約4倍、収益比率は約6割となり、主力事業は電話からICTソリューションへ大きく転換

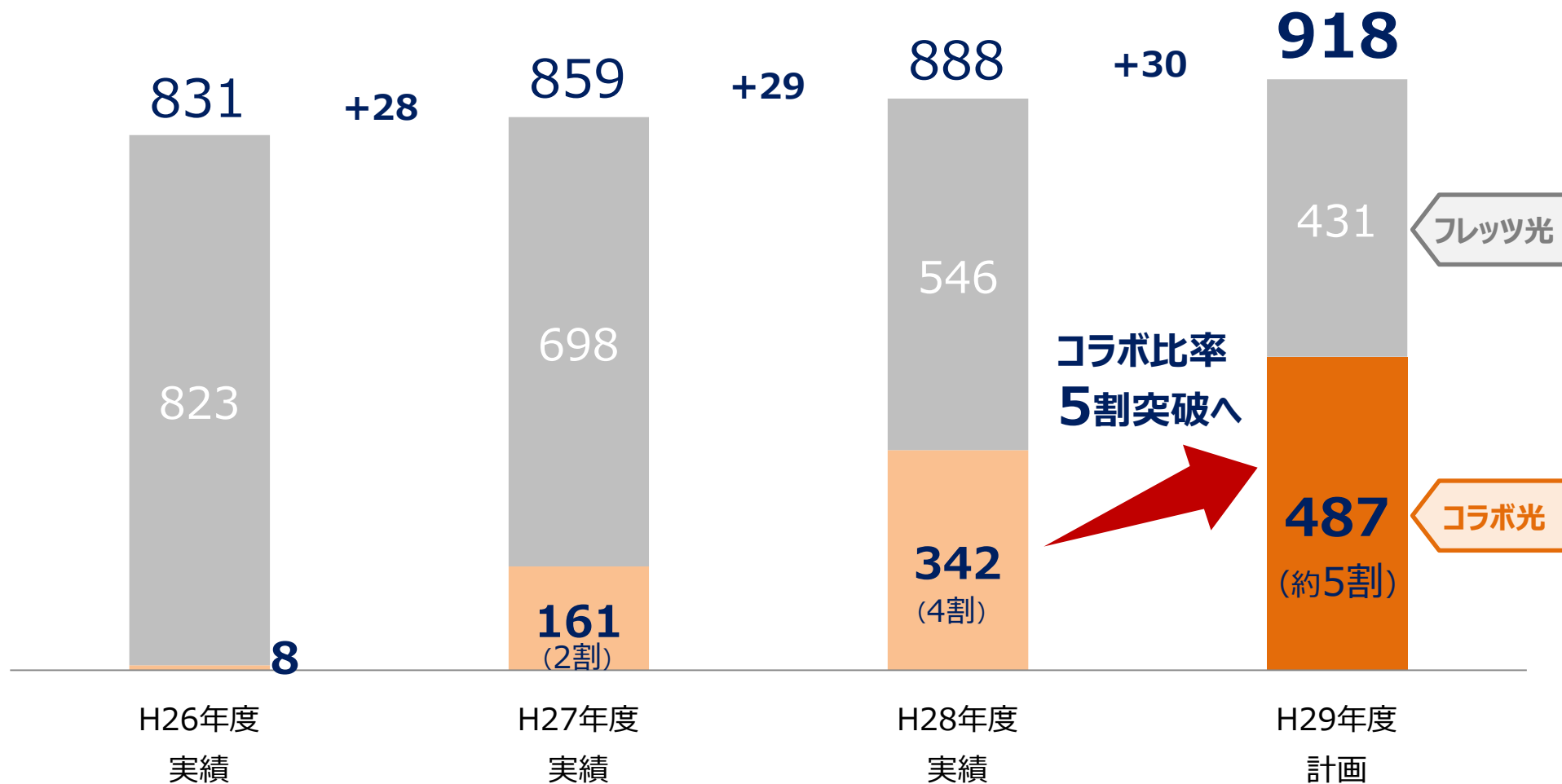
(単位：億円)



光サービス契約数

➤ H29年度末には、コラボ光の契約数比率が5割を超える計画

(単位：万契約)

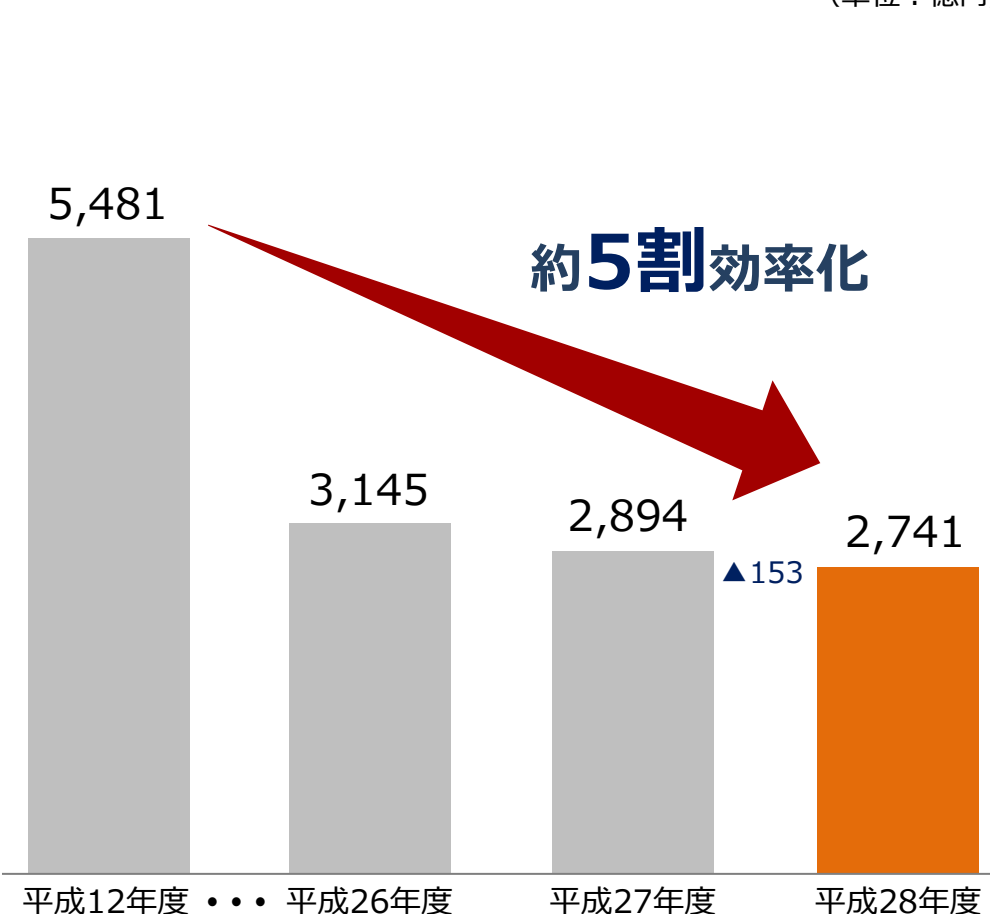


設備投資・有利子負債の推移

設備投資

- 継続的な既存設備の有効活用、設備の高速・大容量化等により大幅に削減

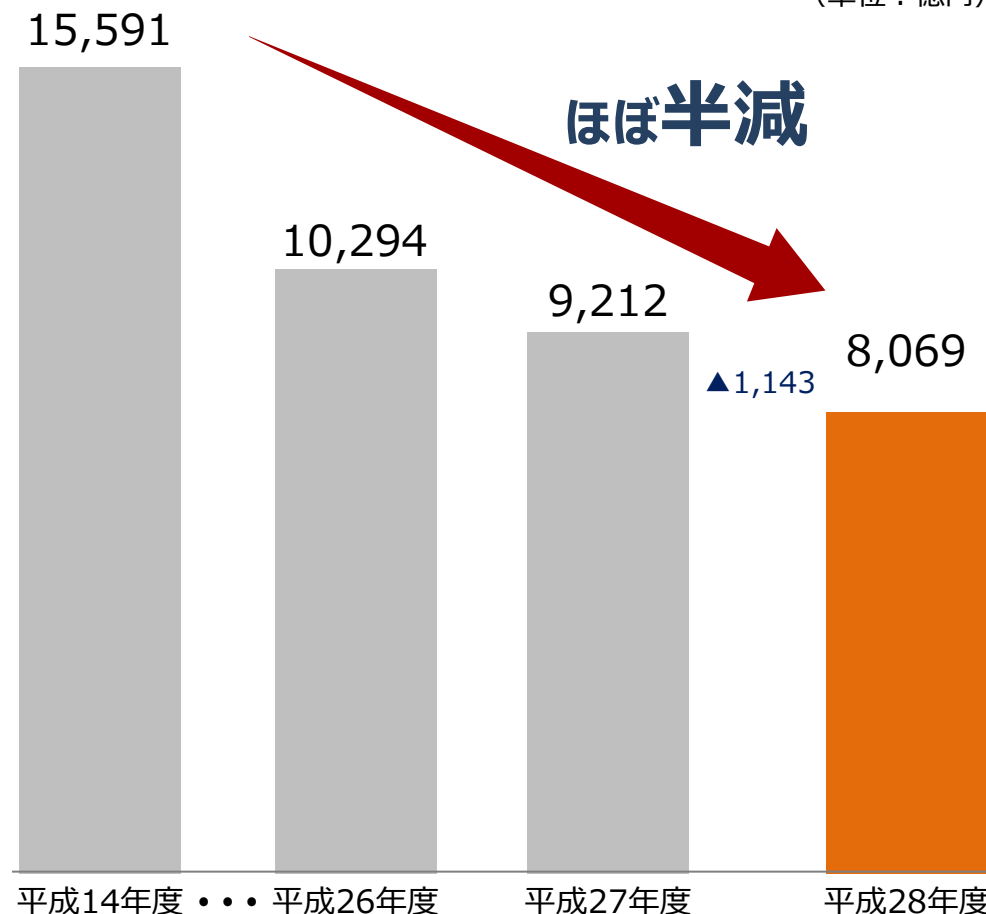
(単位：億円)



有利子負債

- H28年度も継続的な借り減らしに取組み、ピーク時からほぼ半減

(単位：億円)



I. ビジネス市場における収益力向上

- 社会の課題解決に向けたICTソリューションの推進
- ポテンシャルが高い市場へのリソース集中、バックヤードの効率化

II. グループでの成長ビジネス拡大

- コンタクトセンタビジネスを中心とした総合OSビジネスの拡大
- 不動産・コンテンツビジネス 等の拡大

III. 光サービスの拡大と利益確保

- ビジネス分野におけるコラボ事業者の拡大（B2B2Xモデルの推進）
- コラボ事業者のサポート充実

平成29年度業績予想

(単位：億円)

	平成28年度	平成29年度	対前年増減
営業収益	14,790	14,360	▲430
営業費用	13,838	13,360	▲478
営業利益	951	1,000	+48
経常利益	881	950	+68
特別損失	69	—	▲69
当期純利益	597	700	+102
設備投資	2,741	2,600	▲141
光サービス純増数※	28.7万回線	30.0万回線	+1.3万回線

※ 光コラボレーションモデルを含む

本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされもしくは算定されています。

また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を用いてなされもしくは算定したものです。

将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。